吉水流詠唱のすすめ

●目次●

吉水講信条……1

はじめに――詠唱の楽しさ、喜び、ありがたさ……2

1 吉水流詠唱の三本柱……5

①御詠歌……5　②御和讃……6　③お舞……7

2 詠唱のいろは……8

①音階……8　②鈴と鉦……9　③行儀・作法……11

3 口と体で心を表現する……12

コラム　心に沁みる御詠歌……13

4 お念仏へのみちびき……14

5 詠唱でうまれるつながり……16

①お寺とのつながり……16　②仲間とのつながり……18

コラム　心に沁みる御和讃……19

6 詠唱のあゆみ……20

7 詠唱への入門……22

おわりに――さあ、詠唱をはじめましょう……23

吉水講信条

私（わたくし）たちはこの詠唱を通じ

一、篤く三宝を敬い、仏祖の恩徳（おんどく）に報います。

一、元祖法然上人の教えを体し、この道の興隆に励みます。

一、互いに助け合い、念仏をよろこびます。

一、自らのつとめにいそしみ、家庭の平和を念じます。

一、広く同信を募り、社会の浄化につとめます。

はじめに――詠唱の楽しさ、喜び、ありがたさ

皆さま方は、「御詠歌」と聞くとどのようなものを思い浮かべますか。若者に聞いてみました。お遍路さんのとなえる歌？　お年寄りが集まってチーンカーンと鳴り物を入れ、昔ながらの節で情感を込めてとなえる歌？　それぞれ間違っていません。四国遍路や西国巡拝は江戸時代から盛んになりました。四国八十八カ所を巡礼するお遍路さんの「御詠歌」、西国三十三番観音霊場の「御詠歌」、ともに昔から現在に至るまで受け継がれている巡礼歌としての「御詠歌」です。

浄土宗にも「御詠歌」があり、これを「吉水流詠唱」と呼びます。吉水流の「吉水」とは、浄土宗を開かれた法然上人が住まわれていた土地の名前で、現在の総本山知恩院（京都市東山区）のあたりです。この地名から法然上人のことを吉水上人と呼ぶこと

もあります。浄土宗の「御詠歌」は、これにちなんで「吉水流詠唱」と呼びます。また吉水流詠唱を唱える団体のことを「吉水講」といいます。吉水流詠唱は、法然上人のお念仏の教えに直接結びついています。

お寺によってさまざまですが、週に一回あるいは月に二回ほど、吉水流詠唱のお稽古が行われます。お念仏の声よりもう少しお腹に力を入れ、お歌心を精一杯に唱えると、声を出した人も、聞いた人も共に感銘を受けます。みんなで一緒に大きな声を出してお唱えすることは、本当に気持ちよく楽しいことです。お歌には、お念仏の教えがわかりやすい言葉で示されています。日ごろのお稽古を続けることにより、お念仏の教えを身近にいただくことができます。いつの間にか自然と手を合わせ、「南無阿弥陀仏」とお念仏を申す習慣が身につきます。吉水流詠唱をさせていただいて一番ありがたいと感じることです。

思い出します　あの頃を
風の吹く日も　雨の日も
通いましたよ　お寺の御堂
習って忘れて　忘れて習う
　　ソレ（B）声が小さい　腹から出して
　　調子揃えて　もう一度
（『吉水講音頭』一番の歌詞）

この「吉水講音頭」は、吉水流詠唱のお稽古を始めた方、長年お稽古をされてきた方、みんなが「このとおり！このとおり！」と実感をこめてうなずく歌詞です。本書により、吉水流詠唱の楽しさ、喜び、ありがたさを知っていただきたいと願っています。ひとりでも多くの方に入門していただき、お念仏の輪・吉水流詠唱の輪を広めたいと願っています。